

【サービス業・その他の事例 No. 6】

コインランドリー（アルカリイオン水による洗剤臭の発生抑制）

（訪問：2020年10月12日）

■店舗の概要

2013年に設立したフランチャイズのコインランドリーである。高濃度アルカリ分解水による洗濯を2011年に開発したことがきっかけである。

洗剤を使わないため、排気口から芳香が出ないことが特徴であり、同様の方式で住宅地域をはじめ20店舗に展開している。

■事業規模 <ul style="list-style-type: none">・従業員 0名 （遠隔操作している本社には6名）・洗濯乾燥機6台、二段式乾燥機3台 （14kg）	■事業所の建物 <ul style="list-style-type: none">・平屋（入居階）1階（最上階）1階 ■気体排出口 <ul style="list-style-type: none">・1階から12本の個別ダクト（口径60cm未満）で排気
--	--

■対策の経緯

悪臭苦情は発生したことがない。アトピー性皮膚炎でコインランドリーの洗剤が使えない方向けに、肌にやさしいように、洗剤と柔軟剤を使わずに洗濯を行っているため、芳香を含む排気が出ない。

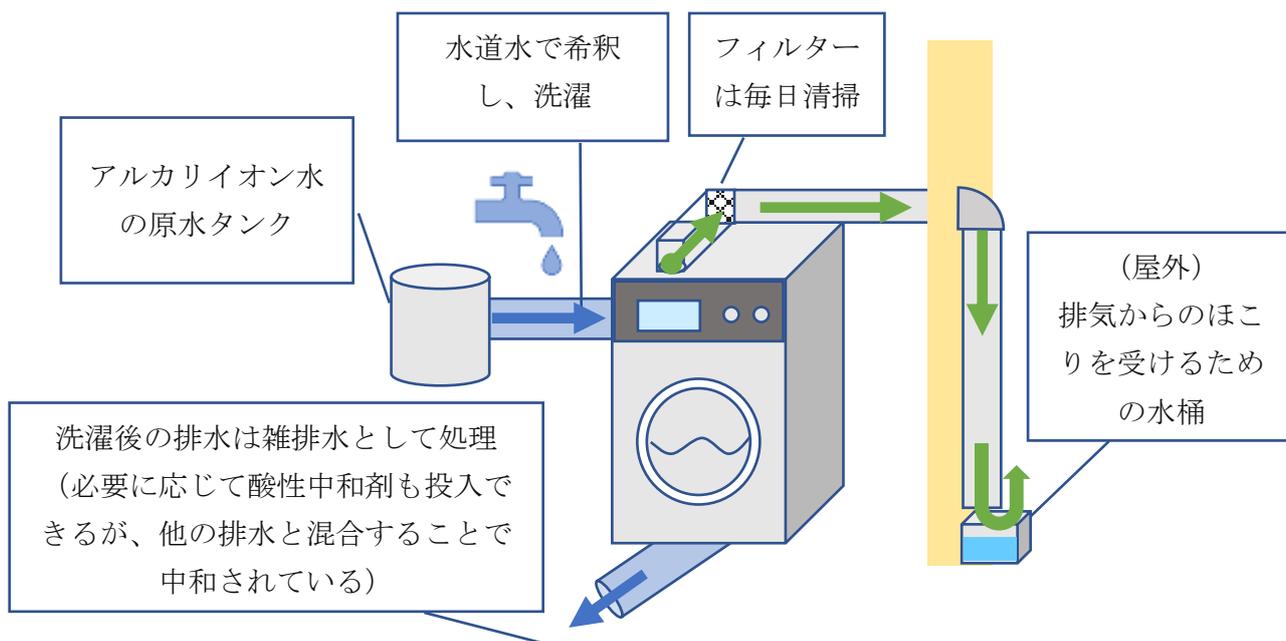
■装置の構造（→空気の流れ、→水の流れ）

洗濯中開始後に、店内のタンクからアルカリイオン水と水道水が洗濯機へ入る。アルカリイオン水の原水タンク内は濃度の高い強アルカリであるが、水道水で希釈する仕組み。強アルカリのため油汚れもよく落ち、柔軟剤を使用しなくても仕上がる。

洗剤を使わないためすすぎが1回で済み、節水と時間短縮になる。アルカリイオン水は保存性がよく本社に設置してある装置で製造し、約1月に1回20Lを補充する。



写真-1 洗濯乾燥機の外観



■排気フロー

洗濯中はほとんど排気されないが、乾燥中には水蒸気が排出される。

乾燥終了後には、5分に1回逆風回転をしている。

アプリでいつ乾燥が終了したか分かるので、比較的洗濯終了後も放置されることは少ない。

洗濯乾燥機	洗濯中	乾燥中	終了	冷却終了
	ほとんど排気されない	水蒸気が出る	ほとんど排気されない	

■対策にかかったコスト

・イニシャルコスト

洗濯乾燥機は、通常の装置とほぼ同額である。

・ランニングコスト

高濃度のアルカリ電解水は約一月に20L使用した場合、3万円のコストとなる。

一般的なコインランドリーでは、水道・光熱費の占める割合が高く、特に水道代はコストの25%程度。しかし高濃度のアルカリイオン水を導入することで、さすがに1回となり、水道代が18%程度に抑えることができる（月50万円の売上店では、水道代125,000円が90,000円となり、35,000円分の水道代が節約になる）。

・メンテナンスの労力

毎日、乾燥機のフィルターを清掃する。

1週間に1回程度、屋外排気口下に設けているダスト受けの水を交換する。
月1回程度、高濃度のアルカリ電解水を20L程度補充する。

■対策後の効果

もともと苦情が発生していない。

■周辺環境、地域との関わり等

住宅地への出店においては、におい問題は発生する可能性がある。

臭気対策のため、無洗剤でのコインランドリーを始めた訳ではないが、近年柔軟剤の香りが問題になっているため、このアルカリイオン水を用いた洗濯は苦情を未然に防ぐことができる。